

2022年度 第1四半期決算 カンファレンスコール

2022年8月4日
取締役CFO
半田 宗樹

01

2022年度 第1四半期の決算概況

02

国内事業、中国事業への取り組み、進捗状況

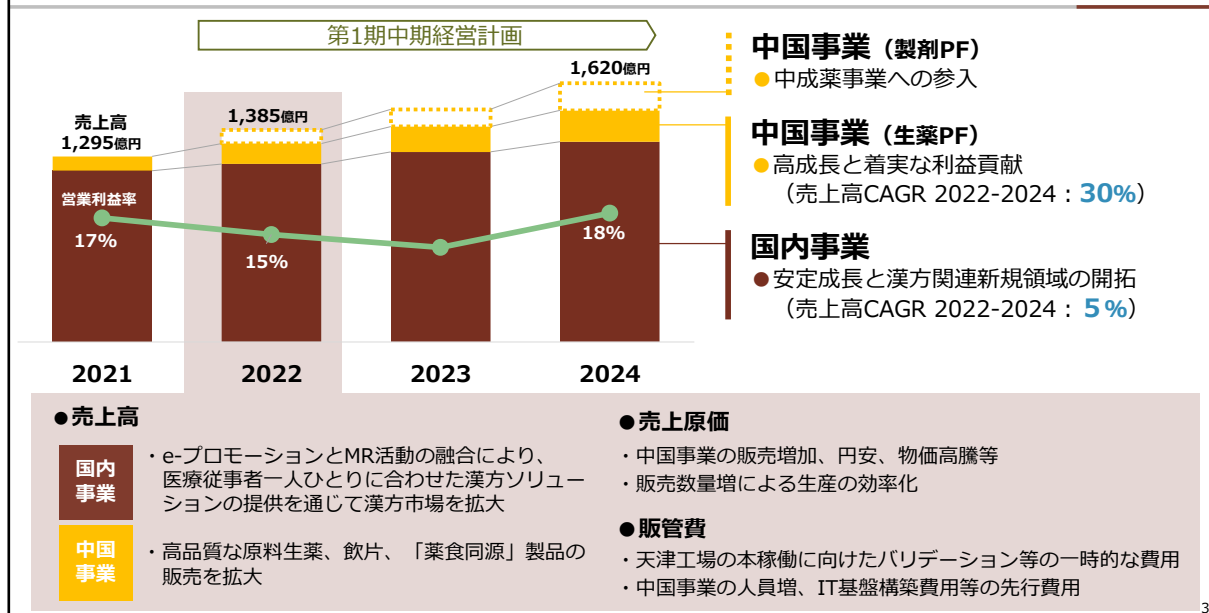
03

2022年度業績予想

2ページは、本日の内容です。

2022年度第1四半期の決算概況、
国内事業、中国事業への取り組み、進捗状況
2022年度業績予想についてご説明いたします。

2022年度計画の概要



3ページは、2022年度の計画の概要です。

第1四半期決算を説明させていただくに際して、2022年度計画のポイントを確認させていただきます。

国内事業はe-プロモーションとMR活動の融合により、必要とする情報を最適なチャネルから適切なタイミングで医療従事者一人ひとりに合わせた、漢方ソリューションの提供を実現し、10処方以上処方医師の増加と漢方市場の継続的拡大を目指します。

中国事業は、高品質な原料生薬、飲片、「薬食同源」製品の販売を拡大します。

売上原価は、中国事業の販売増加に伴い原価率は悪化傾向となること、また円安や物価高騰の影響も見込んでいますが、国内事業の販売数量増による生産の効率化を図り、影響を最小限にするよう努めていきます。

販管費は、天津工場の稼働に向けた費用と中国事業推進のための人員増やIT基盤構築等といった費用により増加します。

天津工場は、国内事業向けの生産体制の強化のために建設しております。国内事業の5%成長は従来より高い水準であり、この成長率が向こう10年間続いた場合、物量は2021年度比で約1.7倍必要となることから、製品の安定供給のため、建設を進めております。

以上のことから、2022年度については、営業利益率は前年に比べて低下する見通しですが、国内・中国ともに売上高を大きく成長させ、第1期中期経営計画期間中に営業利益率の向上を目指していきます。

2022年度 第1四半期の決算概況



【百万円】	2021年度 1Q実績	2022年度 1Q実績	前年比	
			金額	伸長率
売上高	31,771	34,417	+2,645	+8.3%
国内事業	—	31,562	—	—
中国事業	—	2,855	—	—
【参考】国内	29,513	31,562	+2,048	+6.9%
【参考】海外	2,257	2,855	+597	+26.5%
売上原価	15,298	16,462	+1,164	+7.6%
販管費	10,321	11,601	+1,280	+12.4%
営業利益	6,152	6,353	+201	+3.3%
国内事業	—	6,404	—	—
中国事業	—	△50	—	—
経常利益	7,247	8,665	+1,418	+19.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,389	6,632	+1,243	+23.1%
PL換算レート (円/元)	16.37	18.32	—	—

決算ポイント：増収増益の決算

売上高

- 医療用漢方製剤 (129処方)：30,277百万円 (6.7%伸長)
- 一般用漢方製剤等 (国内)：914百万円 (18.5%伸長)
- 中国事業 (生薬プラットフォーム)：2,855百万円

売上原価

- 棚卸資産減による未実現利益の減少
- 原価率は△0.4ptの47.8%

販管費

- 研究開発費の増加
- 天津工場の本稼働に向けた一時的な費用
- 販管費率は+1.2ptの33.7%

営業利益

- 円安の影響は△191百万円
- 中国事業は製剤プラットフォームを中心とした基盤構築の費用により赤字
- 営業利益率は△0.9ptの18.5%

経常利益

- 在外子会社への貸付金に係る為替差益1,999百万円

4

4ページは、2022年度 第1四半期決算の概況です。

ご覧の通り、増収増益の決算となりました。

売上高は344億1千7百万円で、前年同期比 8.3%伸長しました。
内訳は国内事業が315億6千2百万円、中国事業が28億5千5百万円でした。
国内の売上高のうち、医療用漢方製剤129処方の売上高は、前年同期比 6.7%伸長しました。こちらについては後ほど詳しくご説明いたします。

一般用漢方製剤等の売上高は、取り扱い店舗数の拡大により、前年同期比 18.5%伸長しました。
海外売上高は、生薬プラットフォームにおける販売拡大により、前年同期比 26.5%伸長しました。

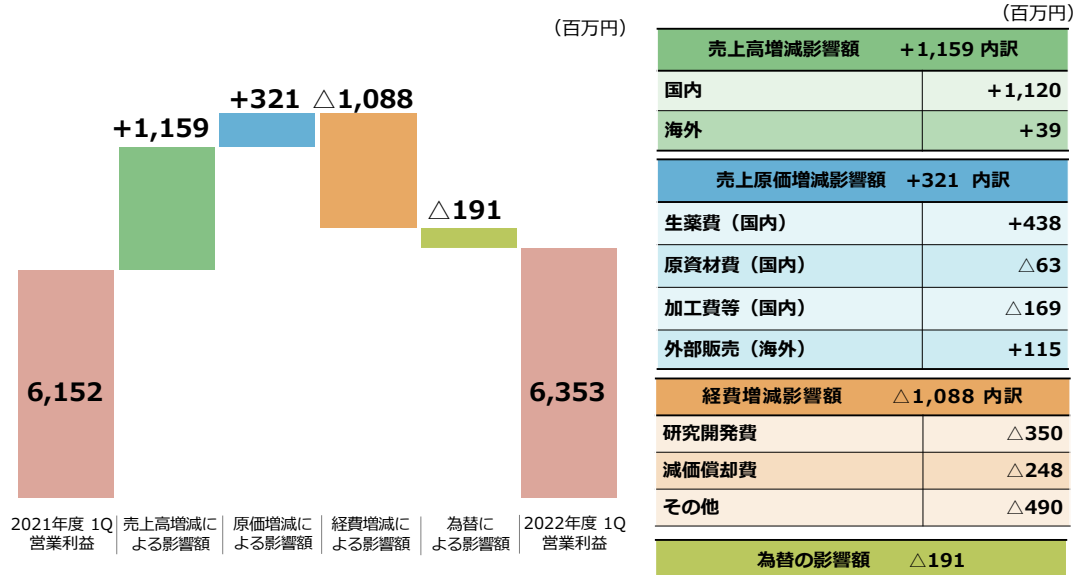
売上原価は、国内販売が好調な中、上海ロックダウンにより上海工場が約1か月程度稼働停止したことにより棚卸資産である中間製品が減少しました。
その結果、在庫に含まれる内部利益である未実現利益が減少し、売上原価率は前年同期比0.4pt低下し47.8%となりました。

販管費率は、研究開発費の増加、天津工場の正式稼働までのバリデーションなどの一時費用により前年同期比1.2pt上昇し、33.7%となりました。

その結果、営業利益は前年同期比3.3%増加し、63億5千3百万円となりました。

経常利益は、在外子会社への貸付金に係る為替差益の影響で、前年同期比19.6%増加の86億6千5百万円、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期比 23.1%増加の66億3千2百万円となりました。

営業利益の増減要因（前年同期比）



5

5ページは、営業利益の増減要因です。

円安が急激に進行していることから、今回より為替の影響額を分けてお示しております。ポイントのみご説明いたします。

営業利益は、前年同期比で2億1百万円増加し63億5千3百万円となりました。売上高増減による影響は、プラスの約11億円でした。国内・海外の内訳は記載のとおりです。

売上原価の増減による影響は、プラスの約3.2億円でした。在庫に含まれる内部利益である未実現利益が減少したことにより、生薬費約4.4億円が営業利益のプラス要因となりました。また、中国事業において飲片の販売が伸長したことによる粗利率の改善により約1.2億円が、営業利益のプラス要因となりました。

一方で、物価高騰による原資材の増加が約6千万円、エネルギーコスト等の増加により加工費等約1.7億円が、営業利益のマイナス要因となりました。

経費増減による影響は、マイナス約11億円でした。研究開発費の増加で約3.5億円、天津工場の本稼働に向けたバリデーション費用等の減価償却費の増加で約2.5億円、その他、中国事業の人員増に伴う給与諸手当の増加、販売拡大に伴う販売促進費の増加等が影響しました。

為替の影響額は、主に在外子会社の為替換算によりマイナス約1.9億円でした。なお、生薬等の仕入れについては、為替予約により影響は大きく受けておりません。

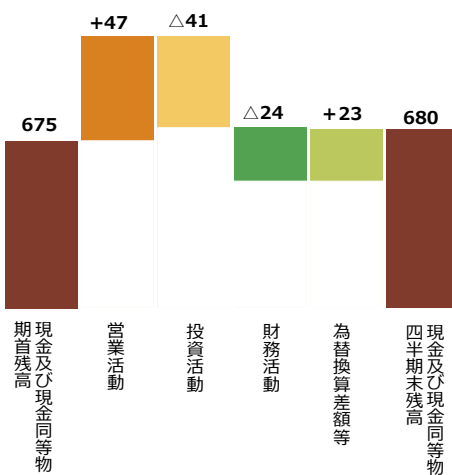
財政状態 および キャッシュ・フロー



(百万円)

(億円)

	2021年度 (2022.3)	2022年度 1Q	増減額
資産合計	350,981	362,580	11,598
流動資産	229,420	237,849	8,428
固定資産	121,561	124,731	3,170
負債合計	92,871	93,512	640
流動負債	45,875	46,799	923
固定負債	46,996	46,713	△283
純資産合計	258,109	269,068	10,958
自己資本比率	68.3%	68.8%	+0.5pt



	2021年度 (2022.3)	2022年度 1Q	増減額	内、為替
棚卸資産計	92,751	95,902	3,151	3,806
商品及び製品	10,247	10,368	120	233
仕掛品	13,614	13,054	△560	110
原材料及び貯蔵品	68,889	72,480	3,590	3,462

6

6ページは、財政状態およびキャッシュ・フローです。
こちらポイントのみご説明します。

流動資産は、売掛金が約24億円、棚卸資産の約31億円の増加等により、約84億円増加しました。

棚卸資産の増加は主に為替換算による影響です。

固定資産は、上海工場のリニューアル、天津工場の建設等により約31億円増加しました。

自己資本比率は0.5ポイント上昇し、68.8%でした。

キャッシュ・フローは右側の滝グラフのとおりです。

01

2022年度 第1四半期決算概況

02

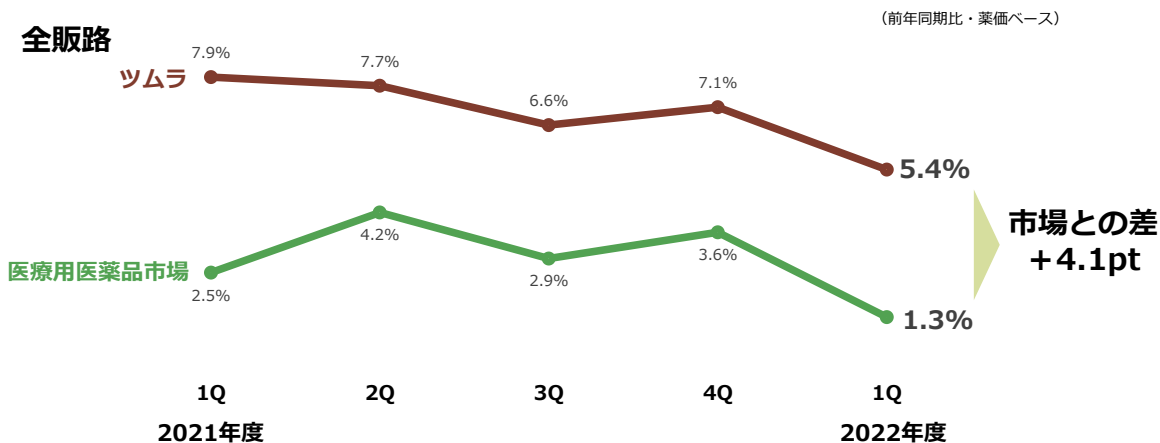
国内事業、中国事業への取り組み、進捗状況

03

2022年度業績予想

続いて国内事業、中国事業への取り組み、進捗状況についてご説明いたします。

第1四半期は前年同期比5.4%の伸長、市場との差は+4.1ポイント



Copyright © 2022 IQVIA. 「JPM 2020年4月～2022年6月」をもとに当社が独自に集計 無断転載禁止 8

8ページは、医療用医薬品市場との比較です。

グラフは全販路（HP・GP）、薬価ベースでの前年同期比の伸長率を示しております。

概ね市場と同様の動きで推移しており、伸長率は当社がプラス5.4%、市場との差はプラス4.1ポイントとなりました。

販路別の比較は、appendixに記載しておりますのでご確認ください。

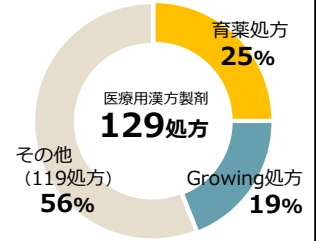
育薬処方・Growing処方 売上高



(百万円)

	売上 順位	製品No. / 処方名	2021年度1Q	2022年度1Q	前年同期比	
育薬 処方	1	100 大建中湯	2,430	2,505	+74	+3.1%
	2	54 抑肝散	1,872	1,933	+60	+3.2%
	4	43 六君子湯	1,770	1,860	+90	+5.1%
	8	107 牛車腎気丸	888	932	+43	+4.9%
	23	14 半夏瀉心湯	345	359	+13	+3.9%
育薬処方合計			7,308	7,591	+282	+3.9%
Growing 処方	3	41 補中益気湯	1,818	1,881	+63	+3.5%
	5	17 五苓散	1,297	1,542	+244	+18.8%
	6	24 加味逍遙散	1,205	1,296	+91	+7.6%
	17	108 人參養栄湯	484	507	+23	+4.9%
	18	137 加味帰脾湯	411	501	+90	+22.0%
Growing処方合計			5,217	5,730	+512	+9.8%
育薬・Growing処方以外の119処方合計			15,852	16,956	+1,104	+7.0%
医療用漢方製剤129処方合計			28,377	30,277	+1,900	+6.7%

売上高構成比率



今年度より新規追加

※ 昨年度までのGrowing処方
68 芍薬甘草湯
29 麦門冬湯

9ページは、医療用漢方製剤の売上高と育薬・Growingの処方別売上高です。

医療用漢方製剤129処方の売上高は、302億7千7百万円で、前年同期比6.7%伸長しました。

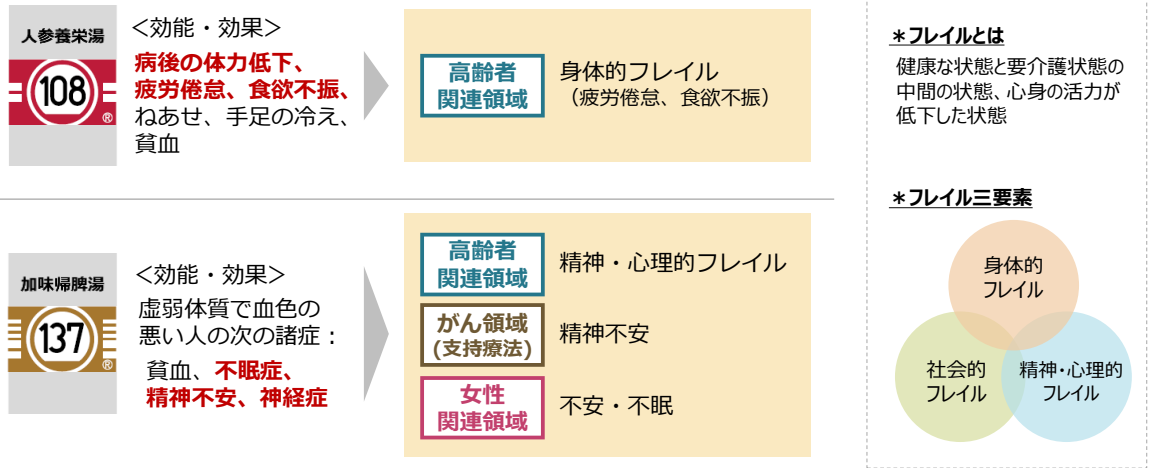
育薬5処方の売上高は、75億9千1百万円、前年同期比3.9%伸長、Growing5処方の売上高は、57億3千万円、前年同期比9.8%伸長でした。

その他119処方の売上高は、169億5千6百万円、前年同期比7.0%伸長しました。

Growing処方については、新たな成長ドライバーとして人參養栄湯、加味帰脾湯を加え、ラインナップの入れ替えを行いました。

売上高構成比率は、育薬処方25%、Growing処方19%、その他56%となりました。

基礎・臨床のエビデンスを構築し、診療ガイドライン収載を目指していく



10ページは、新Growing処方である人参養栄湯、加味帰脾湯がターゲットとしている領域と対象疾患を示しております。

人参養栄湯は、病後の体力低下、疲労倦怠、食欲不振などの効能・効果（適応症）があり、健康寿命の延伸に貢献が期待できる処方です。

加味帰脾湯は、不眠症や精神不安などの効能・効果（適応症）があり、不安・不眠が増加している社会背景もあり、重点3領域すべてにおいて、お役立ていただける処方です。

一例をあげますと、高齢者関連領域ではフレイルを対象疾患とし、人参養栄湯は身体的フレイルに、加味帰脾湯は精神・心理的フレイルに対する基礎ならびに臨床のエビデンスを構築し、診療ガイドライン収載を目指してまいります。

医療従事者一人ひとりに合わせた、漢方ソリューションの提供により
漢方市場の継続的拡大を目指す



11ページは、医療従事者一人ひとりに合わせた情報をお届けするための取り組みを
図式化しております。

当社のメディカルサイトでは、Web講演など、様々な情報を配信しております。
足元では、対話型講演会の「漢方オンラインサロン」が参加者から大変ご好評を
いただいております。

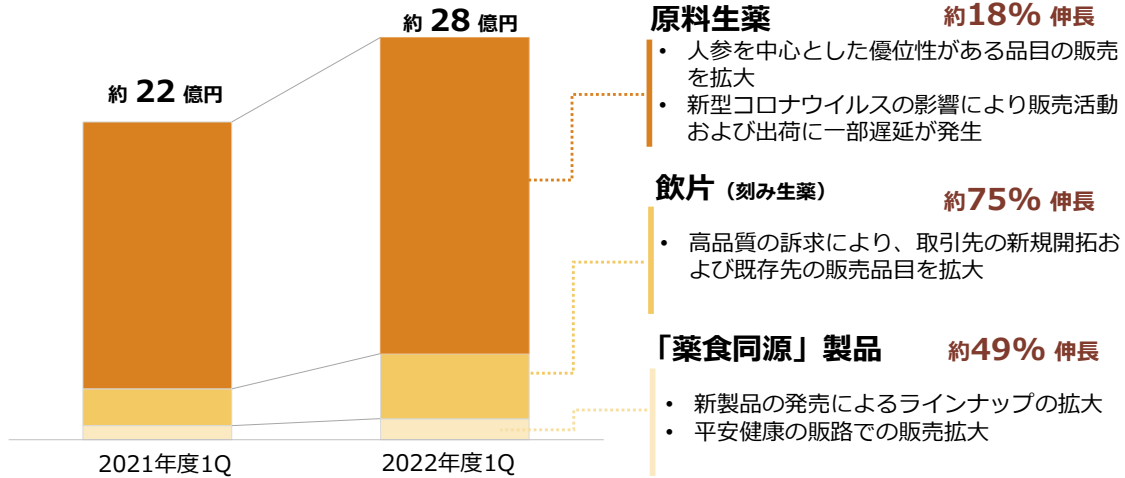
こういったイベントや動画閲覧のデータとMR活動などのデータを連携し、情報の
活用・分析によって、最適な施策の立案を行っています。

特に、e-プロモーションによって漢方に興味を持っていただいた医師などに対し、
MRが処方化の確認や使い分けの提案を行うことによって、処方の定着化を図って
おります。

また、興味を持っていただいた医師などを中心に、少人数の漢方勉強会などの企画も
進めております。

デジタルとMRのハイブリッド型プロモーションをより進化させ、医療従事者一人
ひとりが必要とする情報を最適なチャネルから適切なタイミングで入手、ご活用
いただき、漢方市場の継続的拡大を目指してまいります。

生薬プラットフォームにおける原料生薬、飲片、「薬食同源」製品の販売を拡大



12ページは、海外売上高の状況です。

海外売上高は、前年同期比26.5%伸長し、約28億円となりました。生薬プラットフォームにおける、原料生薬、飲片、「薬食同源」製品の販売を拡大しました。

原料生薬においては、人參を中心とした優位性がある品目の販売拡大に取り組んだ結果、前年同期比で18%伸長しました。

新型コロナウイルスによるロックダウンにより販売活動および出荷に一部遅延が発生しましたが、上期計画は達成できる見通しです。

飲片（刻み生薬）は高品質の訴求により、取引先の新規開拓および既存先の販売品目を拡大した結果、前年同期比で75%伸長しました。

「薬食同源」製品については、新製品の発売によるラインナップの拡大を図り、平安健康（旧平安GD）の販路での販売を拡大したことで、前年同期比で49%伸長しました。

製剤プラットフォーム

健民薬業集団股份有限公司との合併会社設立に関する意向書の締結

- ・中成薬の製造販売を目的とした合併会社の設立に関する意向書
- ・合併契約の締結に向け、具体的な提携内容に関する協議を進めていく

研究プラットフォーム

平安津村中医薬科技有限公司の設立

- ・研究プラットフォームを運営する会社
- ・生薬種苗から最終製品までの全サプライチェーンにおける品質標準の策定、生薬の生産・品質研究および中成薬の品質研究の機能を担う

13

13ページは、中国事業のアップデートです。
8月3日付でニュースリリースを2件出しました。

1件目は、製剤プラットフォームにおける中成薬事業への参入に向けたM&Aに関するものです。

これまで中成薬事業への参入に向け、中成薬の製造販売権を保有する企業との交渉を継続してまいりました。

この度、健民薬業集団（股份有限公司）と、合併会社設立に向けた基本的事項の合意に至り、意向書の締結を決議いたしました。

本意向書は、今後より具体的な提携内容に関する双方の協議を進めていくために、双方の共通認識を示すものです。
合併契約の締結に至りましたら、改めて開示いたします。

2件目は、研究プラットフォームの運営を行う平安津村中医薬科技有限公司の設立です。
研究プラットフォームにおいては、生薬種苗から最終製品までの全サプライチェーンにおける品質標準の策定、生薬の生産・品質研究および中成薬の品質研究の機能を担います。

将来的には生薬・製剤の品質標準化を推進し、中国国内への波及を図ることで、中国における信頼の獲得、ブランドの認知度向上など企業価値の向上に努めてまいります。

本年10月より当社100%子会社である深圳津村薬業有限公司の設備を貸借し、一部研究業務を開始いたします。

なお、専用建屋の竣工は2024年の予定となっております。

01

2022年度 第1四半期決算概況

02

国内事業、中国事業への取り組み、進捗状況

03

2022年度業績予想

最後に2022年度業績予想についてご説明いたします。

2022年度 業績予想の修正



【百万円】	2022年度 上期 前回公表予想	2022年度 上期 修正予想	前回公表予想比		2022年度 通期予想 (修正なし)
			金額	率	
売上高	67,000	68,900	+1,900	+2.8%	138,500
国内事業	-	-	-	-	124,300
中国事業	-	-	-	-	14,200
売上原価	33,500	34,700	+1,200	+3.6%	69,800
販管費	23,700	23,500	△200	△0.8%	47,900
営業利益	9,800	10,700	+900	+9.2%	20,800
国内事業	-	-	-	-	21,200
中国事業	-	-	-	-	△400
経常利益	10,000	14,000	+4,000	+40.0%	21,200
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	7,400	9,600	+2,200	+29.7%	15,000
配当金 (1株あたり)					64円
EPS					196.1円
ROE					6.0%

15

15ページは、2022年度の上期および通期の業績予想です。

昨日、ニュースリリースを出させていただいたとおり、為替相場が円安となったことで、営業外収益における為替差益が28億円ほど計上される見込みです。

これに伴い、上期の経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益が当初計画を大きく上回る見込みとなったことから、業績修正をいたしました。

修正後の上期の予想は、

売上高は689億円、営業利益107億円、
経常利益は140億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は96億円、

通期予想は年間計画を精査しましたが、修正なく、

売上高は1,385億円、営業利益は208億円、
経常利益は212億円、
親会社株式に帰属する当期純利益は150億円の予想です。

業績修正のポイント



売上高 上期修正予想 68,900百万円 前回公表予想比 +1,900百万円

- 国内事業において、COVID-19再拡大および酷暑等の一時的な影響により当初計画を上回っているが、通期では計画通りの水準となる見通し

売上原価 34,700百万円 +1,200百万円

- 上海工場の生産停止（ロックダウン）に伴う棚卸資産減により未実現利益は減少しているが、生産再開による在庫の増加により、上期および通期では計画通りの水準となる見通し

販管費 23,500百万円 △200百万円

- 中国各地におけるロックダウンに伴う活動制限により未消化があるものの、通期では計画通りの見通し

営業利益 10,700百万円 +900百万円

経常利益 14,000百万円 +4,000百万円

- 在外子会社への貸付金に係る為替差益が上期は約28億円（期末レート：20.37円/元）、通期では今後の為替相場の状況により、現時点では合理的に算定することが困難であるため修正なし

親会社株主に帰属する

四半期純利益 9,600百万円 +2,200百万円

16

16ページは、業績修正のポイントです。

売上高は、国内事業において、COVID-19の再拡大および酷暑等の一時的な影響により関連する処方伸長し、当初計画を上回っているため、上期計画を19億円上方修正しましたが、通期では計画通りの水準となる見通しです。

売上原価は、上海工場の停止に伴い棚卸資産が減り未実現利益は減少しておりますが、生産再開により在庫が増え未実現利益も増加するため、上期および通期では計画通りの水準となる見通しです。

販管費は、上海をはじめとした各地でのロックダウンによる活動制限により中国事業において未消化が発生していることから、上期計画を2億円下方修正しておりますが、通期では計画通り消化する見通しです。

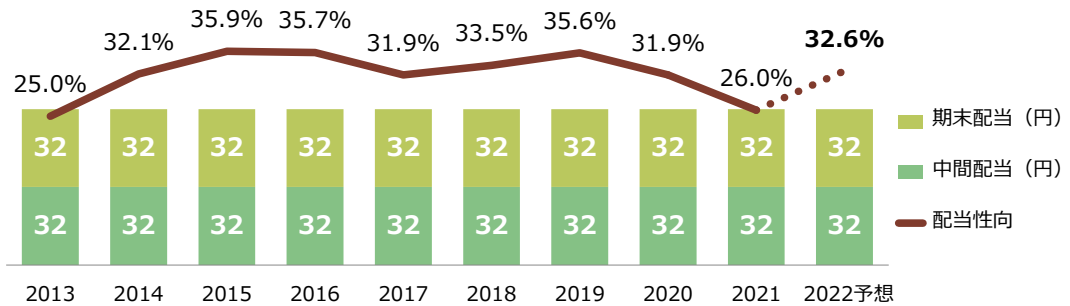
その結果、上期の営業利益は9億円の上方修正となりました。

経常利益は、円安の影響により在外子会社への貸付金に係る為替差益が上期で約28億円を計上する見通しのため、40億円の上方修正となりました。今後の為替相場の状況により、為替差損益が大幅に変動する可能性があることから、現時点では合理的に算定することが困難であるため通期予想は修正なしとさせていただきます。

以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益の上期予想は22億円の上方修正をし、96億円となります。

方針

- 国内事業の持続的な拡大と中国事業の成長投資および基盤構築を通じて、企業価値の向上を図る
- 中長期の利益水準やキャッシュフローの状況等を勘案し、安定配当を実施する



(注) 2022年度期末配当金・配当性向(予想)は、第87回定時株主総会による配当議案決議が前提の予想数値を記載

17ページは、株主還元についてです。

国内における漢方事業のさらなる拡大に加え、特に、中国事業におけるM&Aなどへ成長投資を行い、中国事業基盤の強化を通じて企業価値の向上に努めます。

引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

コーポレート・コミュニケーション室

I R推進グループ

investor_madoguchi@mail.tsumura.co.jp

見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。したがって、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制の変更や、金利・為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少したりした場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。

Appendix

【開示内容の変更】セグメントとエリア別の開示について

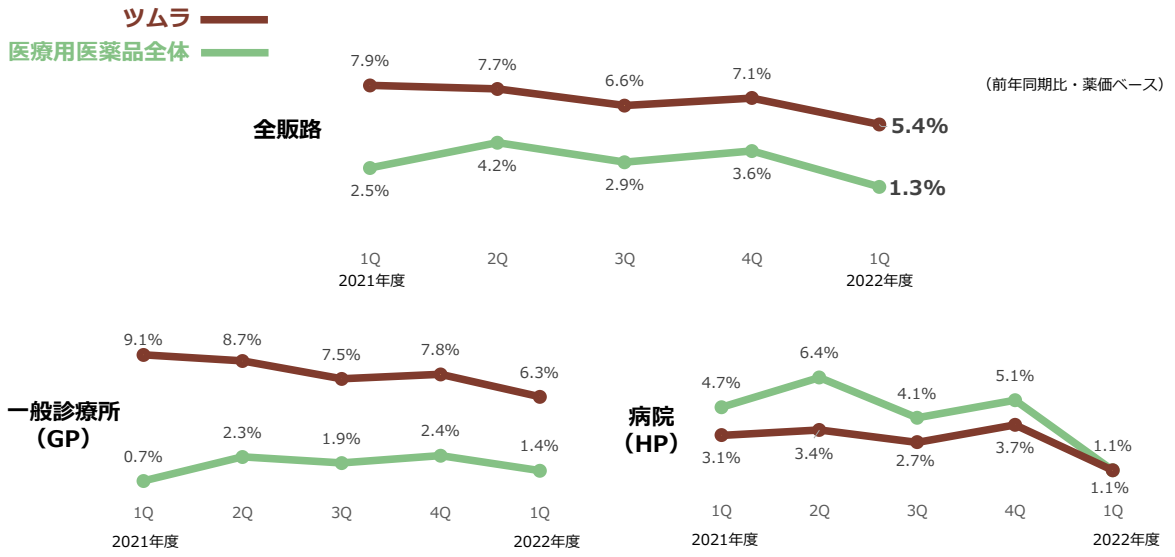
- 2022年度から事業別セグメント情報（売上高、営業利益）を開示

国内事業：外部顧客への最終販売会社が **ツムラまたは国内関係会社** となる取引

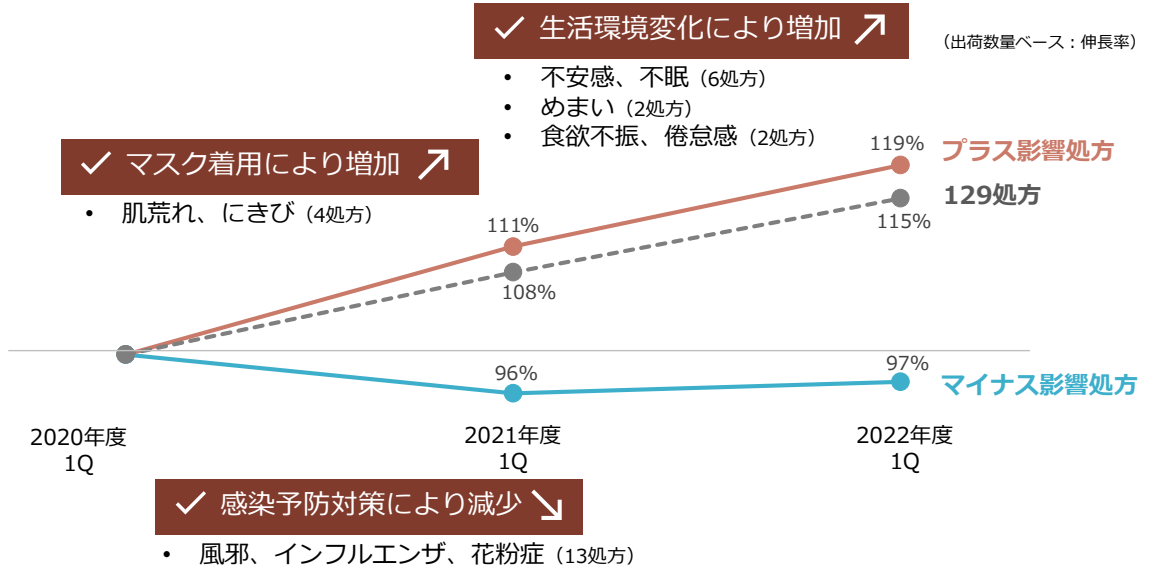
中国事業：外部顧客への最終販売会社が **中国関係会社** となる取引

		セグメント（2022年度～）	
		国内事業	中国事業
エリア別 （2020年度～）	国内	<ul style="list-style-type: none"> 医療用漢方製剤 その他医療用医薬品 一般用漢方製剤等（国内販売） 国内関係会社の外部販売 	—
	海外	<ul style="list-style-type: none"> 一般用漢方製剤等（海外販売） 	<ul style="list-style-type: none"> 生薬プラットフォーム（原料生薬、飲片、「薬食同源」製品） 製剤プラットフォーム

医療用医薬品市場との比較



1Q比較 プラス影響処方129処方を約4%上回る伸長



COVID-19による売上高への影響

処方機会が増加した疾患

精神疾患

精神不安や不眠
 加味逍遙散
 加味帰脾湯
 半夏厚朴湯
 柴胡加竜骨牡蛎湯
 など 計6処方

めまい

心身の不調によるめまい
 半夏白朮天麻湯
 苓桂朮甘湯
 (五苓散) ※

皮膚疾患

マスク着用に伴う
 にきびや皮膚炎
 桂枝茯苓丸加薏苡仁
 十味敗毒湯
 清上防風湯
 荊芥連翹湯

補剤

病後の疲労倦怠、食欲や体力などの
 低下した状態に用いる処方群
 補中益気湯 十全大補湯

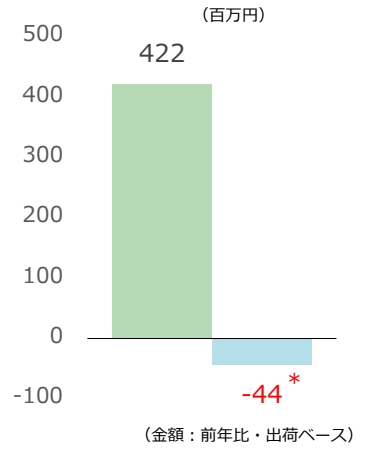
風邪関連

処方機会が減少した疾患

感染予防対策による呼吸器疾患の患者数減少

葛根湯、柴胡桂枝湯、麦門冬湯、桂枝湯、参蘇飲、
 柴陷湯、麻黄附子細辛湯 計7処方

処方機会の増減による影響
 (2022年度1Q)



*前年比減少7処方のみ算出

※五苓散はめまい以外での処方、機会も増加しているため算出根拠から除外

高齢者関連領域		がん領域 (支持療法*)	女性関連領域
精神・神経疾患	フレイルに伴う諸症状	副作用の軽減など	産婦人科疾患
育 抑肝散	G 人参養栄湯	育 六君子湯	G 加味逍遙散
重 抑肝散加陳皮半夏	G 加味帰脾湯	育 半夏瀉心湯	G 加味帰脾湯
+ 関連処方	G 補中益気湯	育 牛車腎気丸	重 当帰芍薬散
呼吸器疾患	育 牛車腎気丸	G 加味帰脾湯	+ 関連処方
重 麦門冬湯	+ 関連処方	G 補中益気湯	その他
+ 関連処方	消化器疾患	重 十全大補湯	育 大建中湯
循環器疾患における周辺症状	育 大建中湯	+ 関連処方	G 五苓散
G 五苓散	育 六君子湯		重 芍薬甘草湯
+ 関連処方	+ 関連処方		+ 関連処方

育 育薬処方：医療ニーズの高い領域において新薬治療で難渋している疾患で、医療用漢方製剤が特異的に効果を発揮する疾患に的を絞り、エビデンス（科学的根拠）を確立する処方
G Growing処方：育薬5処方に続く注力処方として、治療満足度や薬剤貢献度の低い領域でのエビデンス構築（安全性・有効性データ等）により診療ガイドライン取載を目指す処方
重 重点処方：重点領域での漢方の浸透に向けて、育薬処方およびGrowing処方に次いで重要な処方

*支持療法：がんそのものに伴う症状や、がん治療による副作用の症状を軽減させる等の治療

日本事業向けのエキス粉末（中間製品）の製造を担う拠点として設立



第1期工事

- ・第1SD（エキス粉末生産）、倉庫などを建設
- ・2021年3月竣工、2022年度末に本稼働予定
- ・投資額 約150億円

第2期工事

- ・第2SD（エキス粉末生産）を建設
- ・2023年度竣工、2025年度に本稼働予定
- ・投資額 約100億円

設立により得られる効果

- ・ 日本事業向けエキス粉末の生産能力 **: 20% 増**
- ・ 自動化による物的労働生産性向上※1 **: 13% 向上**
- ・ 省エネ技術導入によるCO2排出量削減※2 **: 5,700t/年 削減**
- ・ 冷却水の再利用等による取水量削減率※3 **: 70% 削減**

※1 上海の既存工場との比較
※2 省エネ技術を導入しなかった場合との比較（第1期、第2期合計）
※3 天津工場2期における計画値